

次世代を担う子どもたちのための金融経済教育イベント 「親子で学ぶお金のコト」「学校で学ぶお金のコト」

開催レポート

自分と社会のかかわりから考える、 お金の教育とは？

—— 高校の金融経済教育 先進事例 ——

成年年齢の18歳引き下げに伴い、高校の家庭科や公民科の「公共」で金融教育が拡充された。しかし、資産形成や投資などについて、どのように授業で扱えばよいか、高校教師から戸惑いの声も聞かれる。そうした声に応えようと、学校に求められる金融経済教育をテーマとしたイベントが実施された。『きみのお金は誰のため』（東洋経済新報社）の著者、田内学氏からは、中高生への金融経済教育の新たな視点が示され、群馬県立伊勢崎高校と茨城県立下妻第一高校からは、金融経済教育の先進事例が発表された。



開催概要

- 日時** 2024年10月20日(日) 12時30分～16時00分
主催 金融経済教育推進機構 (J-FLEC)、野村ホールディングス株式会社
協力 株式会社NTTドコモ、株式会社ベネッセコーポレーション

金融経済教育推進機構 (J-FLEC) 一人ひとりの金融リテラシーの向上を目的とする金融経済教育を提供するために発足した、法律に基づく認可法人。講師の無料派遣や、授業で活用できる教材の無償提供などを行っている。 <https://www.j-flec.go.jp>

登壇者



田内 学

お金の向こう研究所代表、
社会的金融教育家、作家、
元ゴールドマン・サックス
金利トレーダー



高橋みゆき

群馬県立伊勢崎高校
校長



生井秀一

茨城県立下妻第一高校
校長

進行役



田邊心技

株式会社
ベネッセコーポレーション
関東支社長

※アーカイブ動画は右記からご覧いただけます。 https://www.nomura.co.jp/fin-wing/lp/j-flec_event2024/

自分と社会、両方の視点でお金を捉える

本イベントは、「子どもたちにとってのお金の学び」をテーマに開催された。小・中学生向けには、株式取引や資産形成などについて、ゲームを通じて体験的に学べるブースを用意。多くの小・中学生と保護者が参加した。教員向けには、講演とパネルディスカッションを実施。その模様はオンラインでも配信された。

講演では、ベストセラー『きみのお金は誰のため』（東洋経済新報社）の著者、田内学氏が登壇。金融経済教育は、「お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育」（知るぽると：金融広報中央委員会ウェブサイトより）と説明した。

「自分中心の経済の捉え方では、お金さえあれば何でもできると考えがちです。しかし、社会の視点で経済を捉えようと、働く人がいるから自分は生きられるといった考え方が生まれます。例えば、このペットボトルも、水質検査をする人、ボトルを作る人、商品を運ぶ人など、様々な働く人がいるから、今、ここにあるわけです。金融経済教育において、資産形成の話は一部であり、自分と社会の両方の視点でお金について学び、自分の生き方や社会のあり方を考えていくことが大切です（写真1）」（田内氏）

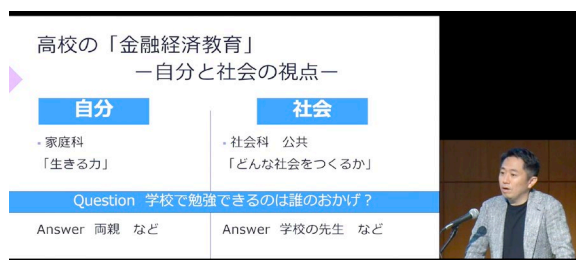


写真1 自分と社会の視点でお金を捉える

家庭科の授業や探究学習など、お金の学びの場が拡大

パネルディスカッションでは、「学校で学ぶお金のコト 『よく生きる』を実現する金融経済教育～授業・探究・実践事例から学ぶ～」と題して、田内氏と、群馬県立伊勢崎高校の高橋みゆき校長、茨城県立下妻第一高校の生井秀一校長が登壇。進行役は、ベネッセコーポレーション関東支社長の田邊心技が務めた。

まず2人の校長が、自校で実践している金融経済教育についてそれぞれ紹介した。

群馬県立伊勢崎高校 ファストファッションから、自分の生活と経済の関係を考えさせる

家庭科の教師である高橋校長はまず、家庭科の学習内容の変化を説明した。これまでは消費者教育が中心だったが、2022年度から実施された学習指導要領では、家計の構造や生活における経済と社会とのかかわり、生涯を見通した生活における経済の管理とそれにかかわる社会保障制度などについて学ぶことが盛り込まれた。つまり、金融教育で終わらせず、金融経済教育に発展させることが求められている（図1）。

生徒が家計・経済・社会とのかかわりを考えるための一例として、バングラデシュで起きた縫製工場ビル崩落事故を題材とした授業を挙げた。1,000人以上の死者が出た事故の原因は、ファストファッションのコストが優先され、安全性や労働環境がないがしろにされていたといったことを生徒は学んだ上で、問題を解決するために自分はどうすればよいかを考え、今後、ファストファッションを買うか、買わないか、理由も含めて述べた。

「授業の冒頭でも、ファストファッションを買っているか、いないかを生徒に質問しますが、ファストファッションの問題点と解決策を考察した後に同じ質問をすると、多くの生徒は回答が変わります。お金の向こう側

図1 家庭科に求められている金融経済教育

これからの授業
人生設計・衣食生活・消費者教育 × 金融経済教育
金融教育で終わらせず、
金融経済教育に発展させて教える
金融教育……主に個人の日常生活における基本的な金融取引に関する知識を与える授業
金融経済教育……個々の金融行動が社会全体や経済にどのような影響を与えるかという視点を持つ授業

※高橋校長投影資料を基に編集部で作成。

にある価値に気づき、どんな社会をつくりたいか、その目的をみんなと共有すること、そしてその実現のために、自分はどのような仕事をして、どんなお金の使い方をするのか、お金を稼ぐ目的は自分だけが幸せになることではないことを、生徒が考えられる授業にしています。教師はどのような社会の創り手を育てるのかという視点で授業づくりをすることが、今後ますます重要になると考えています」(高橋校長)

茨城県立下妻第一高校 アウトプットを積極的に実施し、非認知能力を育む

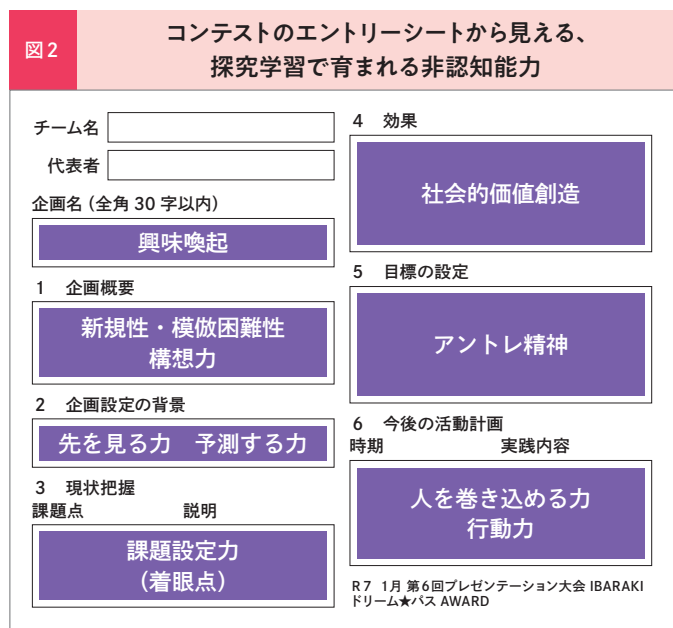
生井校長は花王株式会社の元社員で、茨城県の校長公募で採用され、2023年4月に同校の副校長に就任し、2024年4月に校長に昇格した。花王では、基幹ブランド「メリット」の立て直しや新規事業のEコマースなどを担当。企業の資産を活用して新たな価値を生み出してきた。

「新しい商品が次々に登場し、技術が日々進化していく中で、上司の指示通りに動く、前年度と同じことをするだけの社員は今の時代、必要とされません。どのような仕事に就くにしても、新しい価値を生み出すアントレプレナーシップが必要であり、それを生徒に育みたいと考えています」(生井校長)

同校は、グローバルに活躍できる「アントレプレナーシップ精神」を持った生徒の育成を教育目標に掲げ、既存の教育活動を生かしつつ、生徒と社会を結びつける取り組みに力を入れている。文化祭では、生徒の企画による古着をリメイクしたファッションショーを開催。生徒が集めた昔の服や着物、ソファの生地などのほかに、バリコレに出品された衣装をリメイクするといったエンターテインメントの要素を加えることで、生徒は楽しみながらSDGsについて調べ、社会の課題に目を向けるようになったという。講演会は各分野の第一線で活躍する人物に依頼しており、その1人、アサヒビールの松山一雄代表取締役社長は、「挑戦しなければ未来は変わらない」「前例がない、だからやる」と生徒に語りかけた。今回の登壇者の田内氏も同校で講演。働くことで、どれだけ社会に貢献したか、その結果の価値をお金としてもらうという、働くことやお金そのものの意味を生徒に伝えた。

同校は探究学習も積極的に推進し、生徒にはコンテスト等に応募するよう、指導している。

「コンテストのエントリーシートを見ると、探究学習で設定する課題には、新規性や構想力が求められますし、取り組みの計画を立てる際には、先を見る力や予測する力が必要です。よい着眼点がなければ課題を設定することはできませんし、課題に取り組む上では、やり抜く精神や周りの人を巻き込む行動力が大切です(図2)。つまり、探究学習は非認知能力を育む活動であり、だからこそ学校として力を入れていくと、教師にも生徒にも伝えていきます」(生井校長)



※生井校長投影資料を基に編集部で作成。

パネルディスカッション 大切なのは人を巻き込む力。社会に目を向けることにもつながる

2人の校長による実践事例の紹介後、ベネッセコーポレーションの田邊が進行役となり、田内氏、高橋校長、生井校長が、学校に求められる金融経済教育について語り合った(P.4写真2)。

田邊 田内さんは全国の学校で講演をし、様々な教師や生徒と話す中で、高校時代にはどのような力を身につけてほしいと思っていますか。

田内 生井校長も指摘されていましたが、働く上で「人を巻き込む力」は私も重要な力だと考えています。自分で身につけられる専門知識や技能には限界がありますが、企業で働くにしても、自分で事業を興すにしても、人を巻き込めば、できることが増えます。ただ、人を巻き込むためには、自分のことだけを考えていては駄目で、

高橋校長が言われていたように、他者と一緒に頑張っていける共通の目的が必要です。自分のやりたいことを実現するためにも、社会について考えることはとても大切なことだと思います。

生井 私は本校に赴任した時の挨拶で、「1人では仕事はできず、1人が社会でできることもたかが知れている。仲間がいてこそ、社会に大きなインパクトを残せる仕事ができる」と話しました。それが心に残っていたのか、本校で田内さんが講演した際、田内さんが生徒に、「何のために働くのか」と質問をすると、多くの生徒が「社会のために働く」と答えていました。

田内 人を巻き込む力はすなわち、自分だけでなく、周りの人たちや社会を見て、考えられる力です。社会のためであれば、応援してくれる人、味方になってくれる人が増えます。そういった点からも生徒には、金融経済教育を通じて、自分の視点に加えて、社会とどうかかわるかを主体的に考えてほしいと思っています。

田邊 社会とのつながりを考えるという点において、探究学習は金融経済教育に通じるものがありますね。

高橋 その通りだと思います。本校は群馬県教育委員会から非認知能力の育成に関する研究指定を受け、探究学習にも力を入れています。探究が深まるほど校内だけでは収まり切らず、生徒は学校の外に出て、いろいろな人にとって話します。社会で働く様々な大人との出会いを通じて、生徒は自分が将来どのように働いて、社会に貢献したいのかを考えるようになります。

田邊 探究学習や課外活動に力を入れると、教科学力が伸びず、希望進路の実現に影響するのではないかと聞いた声も聞かれます。

高橋 生徒は探究学習にのめり込むと、授業で学んだ知識が探究学習で役立つことに気づきます。そして、教科学習と探究学習を別物ではなく、横断的に捉え、新しい考えを生み出すといったことが生徒の中で起こるようになります。

生井 探究学習を通じて自分が学びたいことが明確になり、それが希望進路につながる生徒は大勢います。大学入試では総合型選抜の募集定員が増えていますし、教科学習と探究学習は学びの両輪と捉えています。

田邊 金融経済教育や探究学習を通じて、生徒が自分と社会の視点でお金のことや働くことを考えていくことが、生徒自身の、そして社会全体の「よく生きる」につながるのだと感じました。本日はありがとうございました。



写真2 パネルディスカッションの様子